

現代民俗学会第6回運営委員会 議事録

日時：2009年3月28日 13:10～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所3階大会議室

出席：石本、及川、岡田、菅、塚原、徳丸、花木、林、古家、渡部

1. 研究会担当

（1）年次大会について

研究会担当より、年次大会（5月23日）について報告があった。会場は成城大学（9:00～17:00）を確保済みである。内容として、各国の民俗学の統合化の状況や日本民俗学としての積極的な国際交流の必要性をふまえ、基調講演および関連するシンポジウムを開催する。講演の全体の所要時間は1時間30分（講演45分、通訳のため45分）である。

（2）年次大会前の交流会について

5月22日に予定されている交流会について審議が行われ、交流会は「第3回現代民俗学会研究会」として開催すること、日時は5月22日（金）14:00～とし会場は筑波大学内で手配することを決定した。

（3）2009年度の研究会について

2009年度の研究会活動について計画案が出され、審議の結果、年次大会に関連する内容で2回程度開催するほか、自由な個人発表の場として「個人研究成果発表会」を1回実施する方針となった。このほかに会員からの応募があれば実施することとなった。

2. 会計担当

（1）新入会員について

担当委員より入会希望者の紹介があり、1名の入会を承認した。

（2）決算報告について

次回総会における決算報告の内容について審議した。

3. 編集担当

(1) 創刊号の編集状況

編集担当より、印刷業者および英文校閲の業者を決定したこと、ページ数は110～120ページの子定で編集しているが、ページ数増や体裁の見直し等で増ページの可能性もあることが報告された。

(2) 審議事項

①投稿規定について

第2号以降の投稿規定について提案があり、審議の結果、つぎのとおり決定した。

投稿区分は「論文」（書評論文を含む）、「研究ノート」、「翻訳」、「批評」とする。論文と研究ノートは自由投稿で査読制とする。論文には投稿者の希望および編集委員の判断で、運営委員や査読者などのコメントを掲載する。「批評」欄は、論文単位の書評や研究動向の批評で構成するが、欄の名称等は今後さらに検討する。

このほか、事前のエントリーシートを義務付けること、「論文」と「研究ノート」の使用言語は日本語に限定すること、提出方法は原則メールとすること、著者による費用負担を明記すること、モラルに関する規定を明記することなどで合意した。これらをもとにさらにメール審議を継続することとなった。

②著作権について

第2号以降の著作権の扱いについて、他学会の規定を参照して意見交換が行われた。その結果、著作権は学会にあると規定しておき今後の電子版公開に備えること（会誌にも学会名でコピーライトマークを入れる）、著者自身による転載などは自由とすることで合意した。

③機関送付について

雑誌の寄贈の必要性について指摘があり、約50部を各地の図書館や研究室に寄贈する方針となった。

4. 庶務担当

(1) 会則改正案について

庶務担当より、総会における会則改正のポイントとして、役員の定義や任期規定の追加、総会審議における議決方法の明文化、運営委員会の位置づけの明確化、柔軟性のある専門委員会制度（会員が柔軟に参画できる制度）の設置について提案と説明がなされた。基本的に提案のとおり進める方針で合意したが、引き続き審議を行うこととされた。

(2) 選挙規定について

他学会の選挙規定を参照した結果、100人規模の学会であれば事前投票でなくその場での投票と開票が適切であることで合意した。また選挙以外での委員の補充も可能にする規定をもちこみたいとの提案がなされた。

5. その他

- ・年次大会の第2回および第3回サーキュラーの内容、共催名の扱い、懇親会の担当者、会場設営担当者について検討された。
- ・ホームページ上の「当会について」欄の記載内容の充実について提案があり、新たに加筆増補する方針となった。
- ・次回（第7回）運営委員会は、5月9日（土）13:00より筑波大学内にて開催する。

以上